

子どもが 学校に行きたくないと言ったら



入間市教育委員会
家庭教育応援通信
2024年12月



こんにちは こちらは入間市教育委員会です

この家庭教育応援通信では
子育てに必要な情報を皆様にお伝えしていきます。

今回は
子どもが学校に行かない（行けない）とき
どうしたらいいかについてのお話しです。

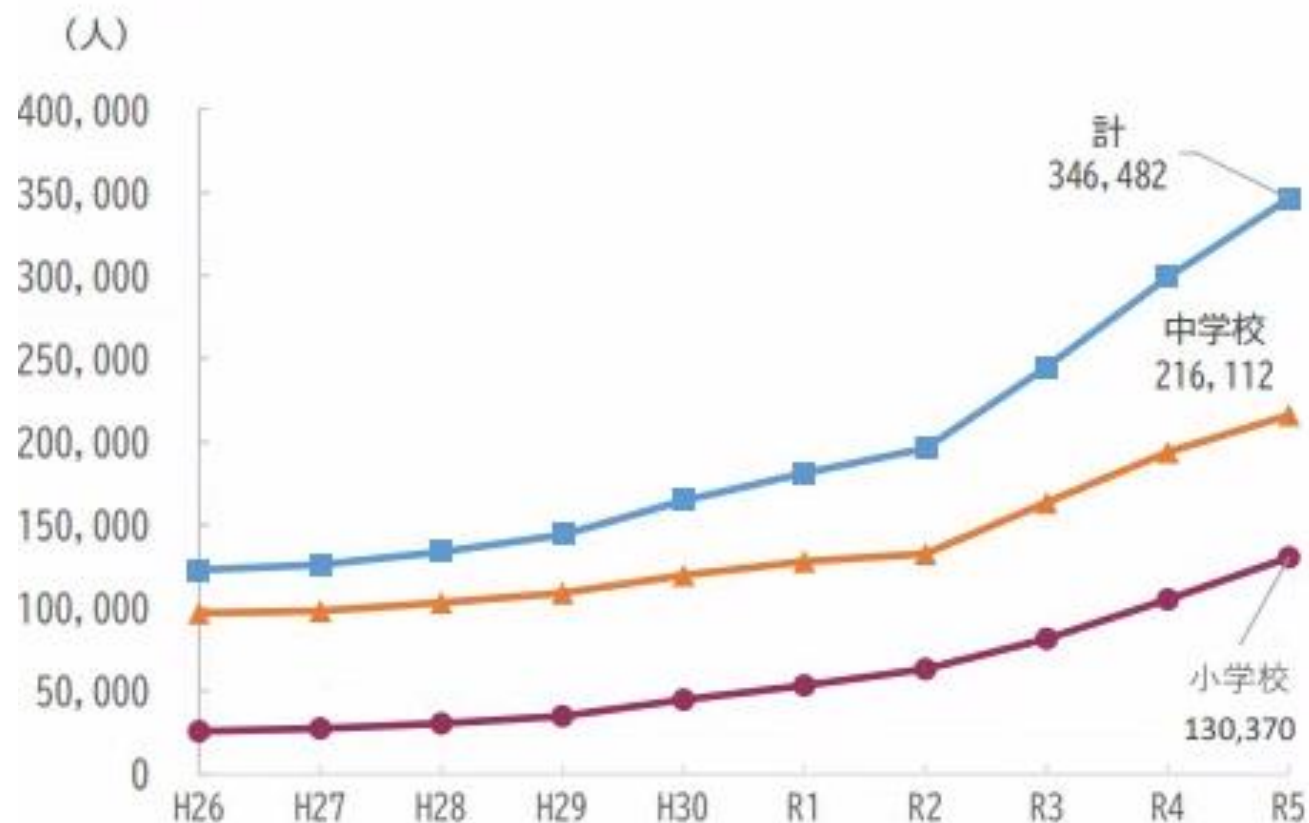
参考にしていただければ幸いです。

入間市マスコットキャラクター
「いるティー」



不登校児童生徒は全国で約 34.6 万人

不登校児童生徒数の推移



小・中学校での不登校の児童生徒数は11年連続で増加しています。令和5年の調査では約34.6万人となっています。

全体に占める割合では、小学校で2.1%、中学校で6.7%になります。

学校に行きたくない…

ある日、子どもが

トイレに入ったまま出てこれない

いくら言っても学校に行こうとしない となったら



わが子が学校に行けなくなる、あるいは、行かなくなることは、親にとっては一大事です。何とか理由を聞きだして解決しようとしたり、励ましたり叱ったりして学校に向かわせようとしたりしがちですが…

理由を言葉にできなかった

「うちの子は、行きたくない理由を言葉にできませんでした。
おとなは、理由を聞いたら腑に落ちたり、対処もできると思うからラク。子どもはうまく言えないことがある。理由探しをせず、まず本人に寄り添う。その子ならではの出口は必ずあります。」
(小学校で不登校になった経験を持つ子の母親)

子どもは何かわからないけど苦しかったり、言葉にしてうまく言えなかったりすることがあります。そんなとき、助けたいとの思いから原因究明をあせってしまうと、子どもを追い詰めることにもなります。



子どもも苦しんでいる、だから

- 受けとめる
- ・ 本人のつらい、苦しいを認める
 - ・ 本人にしたら当然の反応かも
 - ・ 親に伝えてくれたことに感謝



- 解決を焦らない
- ・ 聴いてもらえるだけで力が湧くことも
 - ・ 子どもは家族への気遣いがある
 - ・ 自分が絶対正しいとは限らない

- 専門家につながる
- ・ 学校
 - ・ 相談窓口
 - ・ NPO

まず受け止める

優しく受け止める

学校に「行かない」困った子ではなく、「行けない」で困っている子がほとんどです。本人のつらい、苦しいという気持ちをまず認めてあげましょう。

理由や原因を明確に言える子はほとんどいません。親への遠慮もあるし、自分で自分の気持ちがわからないということもあります。

休ませてもよい

学校に行かないのは、本人にしたら当然の反応かもしれません。無理やり行かせても長続きしないことがよくあります。かぜをひいたときは休ませてあげますよね。休むということも時に必要と考えてみましょう。

解決を焦らない



親として焦る気持ちはわかります。でも…

聴いてもらえるだけで力が湧くこともある

学校に行かない（行けない）子は、頑張ろうとする力が底をついてしまった状態と言えます。寄り添って心の声を聞こうとする人がいるだけで力が湧くこともよくあります。

子どもは家族への気遣いがある

親に心配をかけたくないとか、逆に怒られたくないなどから口を閉ざすことはよくあります。心をほぐす時間が必要です。

自分が絶対正しいとは限らない

親はどうしても視野が狭くなりがちです。いろいろな考え方に触れてみる方が、解決につながる可能性が増えます。

相談先はいろいろあります 1

学校の先生

担任の先生の外に、学年主任、養護教諭、校長・教頭など管理職の先生もいます。養護教諭は立場上ふだんからいろいろな相談ごとに対応しています。



学校内の相談機関

市内全ての中学校のさわやか相談室に、保護者の相談窓口として直通の電話を設置してあります。小学生にも対応しています。

入間市教育センター（相談員）

適応指導教室のひばり教室があり、専任の相談員が相談に応じています。面接相談は予約が必要ですが、電話相談もできます。



相談先はいろいろあります 2



子育て相談先

「入間市 子育て相談先」で検索いただくと、入間市ホームページ内にある子育て相談先情報が手に入ります。対面、電話、メールやLINEでの相談ができるところを紹介しています。

NPO（非営利団体）

市内には、不登校の子どものための小さなフリースクールを運営しているNPO法人があり、保護者の相談にも応じています。

子どもの居場所実施団体

入間市社会福祉協議会のホームページの事業一覧には、子どもの居場所実施団体の紹介ページがあります。週1回くらいのペースで子どものための居場所づくりをしています。。

不登校の子のための学習支援

休みが長く続くと親としては勉強の遅れが心配になりますが、学校以外にも学習支援の場があります。

適応指導教室「ひばり教室」（原則、中学生対象です）

入間市教育センターにある不登校の子のための教室です。

room-K

入間市がNPO法人と行っているオンラインでの支援です。

フリースクール

民間の教育施設ですが、学校ではありません。個人・NPO法人・ボランティア団体など運営媒体により、方針、教育理念、料金等が異なります。

いるま学習支援の会 こども☆チャレンジひろば

前述の子どもの居場所づくりの場での学習支援です。



国の不登校対策

令和5年3月に文部科学省が「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」を発表しました。



目指す姿

1
— P5

**不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、
学びたいと思った時に学べる環境を整えます。**

- ✓ 一人一人のニーズに応じた多様な学びの場が確保されている
※ 不登校特待校、校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム等）、教育支援センター等、こども家庭庁と連携し多様な学びの場、学習場を確保
- ✓ 学校に来られなくてもオンライン等で授業や支援につながるができる
- ✓ 学校に戻りたいと思った時にクラスを変えたり、転校したりするなど本人や保護者の希望に沿った丁寧な対応がされている



2
— P7

心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援します。

- ✓ 1人1台端末で小さな声が見え化され、心の不安や生活リズムの乱れに教師が確実に気付くことができる
- ✓ 小さなSOSに「チーム学校」で素早く支援することにより、早期に最適な支援につなげられている
- ✓ 教育と福祉等が連携し、子供や保護者が必要な時に支援が行われる。
※ こども家庭庁と連携し自治体の教育委員会と福祉関係等の連携・協働を強化



3
— P9

**学校の風土の「見える化」を通して、
学校を「みんなが安心して学べる」場所にします。**

- ✓ それぞれの良さや持ち味を生かした主体的な学びがあり、みんなが活躍できる機会や出番がある
- ✓ トラブルが起きても学校はしっかり対応してくれる安心感がある
- ✓ 公平で納得できる決まりやルールがみんなに守られている
- ✓ 障害や国籍言語等の違いに関わらず、色々な個性や意見を認め合う雰囲気がある



学びの場を確保

プランの中では、その1として、「不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、 学びたいと思った時に学べる環境を整えます」としています。

不登校特例校（現在の名称は「学びの多様化学校」）、校内教育支援センターの設置促進、教育支援センターの機能を強化するなどの対策が示されています。

これは、不登校は誰にでも起こり得ることであって、仮に不登校になったとしても、学びたいと思った時の個々のニーズに応じた受け皿を整備して支援していこうということです。



学びの多様化学校

「学びの多様化学校」（旧不登校特例校）は、不登校児童生徒の実態に配慮した特別な教育を行う学校として文部科学大臣が指定する学校のことです。

- ・ 年間の授業時数を弾力的に運用
- ・ リモートでの参加可
- ・ 複数担任制
- ・ 掃除がなく個別の短時間面談を実施
- ・ 習熟度クラスやSST（ソーシャル・スキル・トレーニング）の授業など、学校ごとに異なる様々な配慮をしています。



現在、全国に35校あります。（公立学校21校、私立学校14校、公立は無料、私立は学費の支払いあり）

学校数(35校)

【うち、公立学校21校、私立学校14校】



埼玉県でも、
さいたま市が令和8年度に開校
を予定しています。

文科省は今後の
目標として、
全国で300校
を目指しています。

子どもの最善の利益を最優先に

不登校の子どもに対しては、学校・家庭・社会が寄り添い、共感したり、受け入れたりすることが、子どもの自己肯定感を高めるためにも大切です。

不登校は決して問題行動ではありません。不登校の子どもの支援を行う際は、子どもの最善の利益を最優先に行うことが求められます。

支援の際は、登校をすることだけを求めるのではなく、子どもが自分の進路を自ら考え、社会的に自立することを目指すことが大切です。

支援のために



担任・友達との関係

うまくいかなくて悩む子があります。世の中合わない人もいることを伝えましょう。担任との関係の場合、学年主任や管理職の先生に相談できます。いじめかなと思ったらすぐ学校に相談を。

息切れ

頑張りすぎて心が疲れ切ってしまったら休ませてあげましょう。休みが長く続くときには生活のリズムが崩れないように配慮を。

母子分離不安

小学校入学など環境の変化が大きいと、ストレスから強い不安を感じ登校を渋ることがよくあります。付き添い登校などもありますが、できたことをほめながら自立心を養いましょう。

支援のために

不安・混乱

感覚が敏感で、学校という場の刺激が強すぎる子がいます。必要に応じて児童心理や発達の特門家に相談しましょう。

学業不振

勉強の遅れが負担なら、前に戻って教えてあげる人が必要です。

家庭環境

離婚や経済的な変化等での親のストレスを子どもが感じ取り不安になることがあります。つらい状況ですが責めずに察してあげましょう。

遊び・非行

仲間や本人のことを責めるだけだとさらに家から離れるかもしれません。大事に思っていること、親の思いを伝えましょう。

子どもの将来の自立に向けて

この他にも不登校の理由や原因は様々あるうえに、実際にはこれらが複雑に絡み合っていて、子どもによって状況は異なります。単純にこれが理由だと言えるようなケースは、まずありません。

また不登校といっても、給食だけは食べに行ける子、適応指導教室やフリースクールには通える子、家から出ることも難しい子など、様々な状態の子がいます。

これを保護者だけで解決することは容易ではありません。大事なことは、子どもの困り感をやさしく受けとめること、そして、外部に進んで相談することです。

将来の自立に向けた取組は何をしたらいいのか、様々な支援の手を借りながら考えていきましょう。

アンケートへのご協力をお願い

本通信の今後の向上のため、下記のURLをクリックしてアンケートにご協力ください

<https://forms.gle/Qc9xk3X9FsmaQSbX9>

ありがとうございました

